

令和6年度県立学校養護教諭研修会

～HPVワクチン理解促進について～

令和7年3月11日

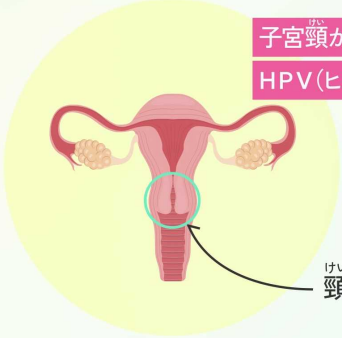
群馬県健康福祉部感染症・疾病対策課
感染症危機管理室

あなたをまもる手段

1

1

子宮頸がんとHPVワクチン



子宮頸がんの原因
HPV(ヒトパピローマウイルス)

子宮頸部

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という部分にできるがん
- HPVという「ウイルス」への感染が原因
- 子宮頸部に持続感染し、前がん病変を経てがんとなる

◆ 子宮頸がんの進行 ◆

① HPVの感染*

正常な子宮頸部の細胞にHPVが感染する

ヒトパピローマウイルス感染

ほとんどは自然に消えます

② HPVの持続感染

一部の人でHPVがなくならずずっと感染した状態になる

一部は自然に正常に戻ることがあります

③ 前がん病変(異形成)

がんになる手前の状態になる

手術などの治療が必要になります

④ 子宮頸がん

前がん病変からがんになる

数年～数十年かかって進行

※HPV感染は、主に性的接触によって起こります。一生のうち何度か起こります。

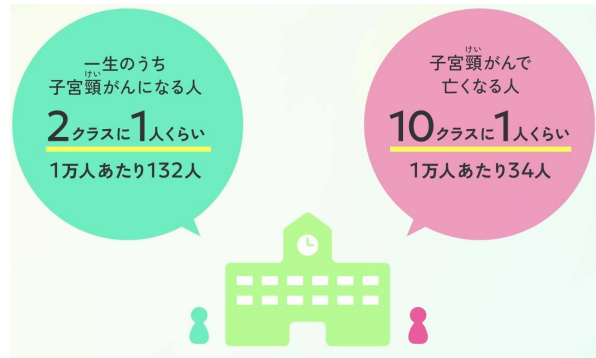
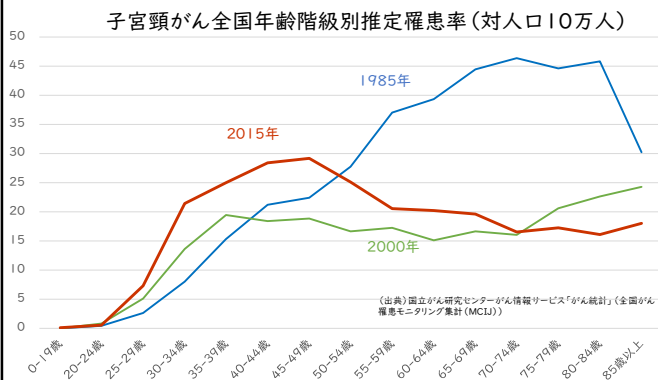
HPVワクチンはHPVへの感染を防ぐことができる ▶ 子宮頸がんはワクチン接種で予防できる

2

2

日本における子宮頸がんの発生割合

- 毎年約**1.1万人**の女性が子宮頸がんにかかり約**2,900人**の女性が子宮頸がんによって亡くなっている
- 最近では若い年齢層で発症する割合が比較的高い
- 30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人は毎年約**1,000人**
- 25～40歳の女性の**がんによる死亡の第2位**は、子宮頸がんによる



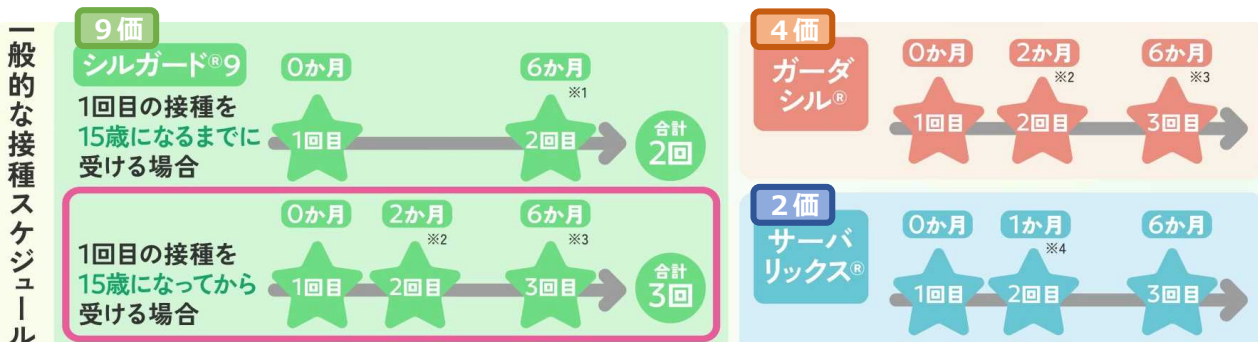
3

3

HPVワクチンの種類・接種方法

定期接種(公費接種)対象 … 小学6年～高校1年相当の女性

キャッチアップ接種(特例の公費接種)対象 … 平成9年度～平成19年度生まれの女性



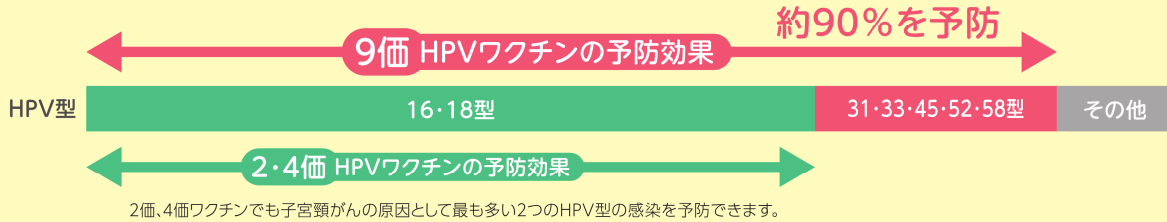
- 現在は最も予防効果が高いとされている**9価ワクチンが主流**
- 標準的とされる接種スケジュールは**6ヶ月**だが、安全性を確保しつつ**4ヶ月**まで短縮できる
- 原則として、1回目に接種したワクチンと同じ種類のワクチンで接種することが望ましいが、医師の判断のもと9価のワクチン等に切り替えることは可能

4

4

HPVワクチンの効果

● 子宮頸がんの原因HPV型とワクチンの予防効果



- 9価ワクチンであれば、子宮頸がんの原因となるHPV型の**約90%を予防**することができる
- HPV感染を予防することで子宮頸がんの前がん病変を予防する効果が確認されている
- 接種の進む諸外国を中心に、**子宮頸がんそのものを予防する効果も確認**されている

※予防効果は100%ではないので、**ワクチン接種後も定期的な子宮頸がん検診は必要**

5

5

HPVワクチンの副反応

◆ 発生する可能性がある副反応 ◆

発生頻度	2価ワクチン (サーバリックス®)	4価ワクチン (ガーダシル®)	9価ワクチン (シルガード®9)
50%以上	疼痛*、発赤*、腫脹*、疲労	疼痛*	疼痛*
10~50%未満	掻痒(かゆみ)、腹痛、 筋痛、関節痛、頭痛など	紅斑*、腫脹*	紅斑*、腫脹*、腹痛
1~10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、そう痒感*、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、 疲労、内出血*など
1%未満	知覚異常*、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、 硬結*、出血*、不快感*、倦怠感など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、 倦怠感、硬結*など
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

サーバリックス®添付文書(第14版)、ガーダシル®添付文書(第3版)、シルガード®9添付文書(第1版)より改編

*接種した部位の症状



ワクチンとの因果関係にかかわらず報告される数であるため「ワクチンによって引き起こされた症状」と表現すると不正確

6

6

接種後に生じる「多様な症状」と関連報道の影響

2010年11月 HPVワクチンに対する公費助成開始
2013年 4月 HPVワクチンの定期接種開始

接種後に生じる「多様な症状」が報告され大きく報道される

2013年 6月 「多様な症状」によりHPVワクチン接種の積極的勧奨を差し控え

2015年12月 WHOが日本を名指して批判する声明
「日本は若い女性をヒトパピローマウイルスによるがんの危険にさらしている」

「多様な症状」とは

HPVワクチン接種後に、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動などを中心とする多様な症状が現れたことが報告された

- 身体症状はあるものの異常所見が認められない「機能性身体症状」と考えられている
- HPVワクチン接種歴のない方においても、接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を有する方が一定数存在したことが明らかとなっている
- 「多様な症状」について様々な調査研究が行われているが、「ワクチン接種との因果関係がある」という証明はされていない

「多様な症状」にはHPVワクチン接種との因果関係は認められず、接種によるベネフィットがリスクを大きく上回ることを確認

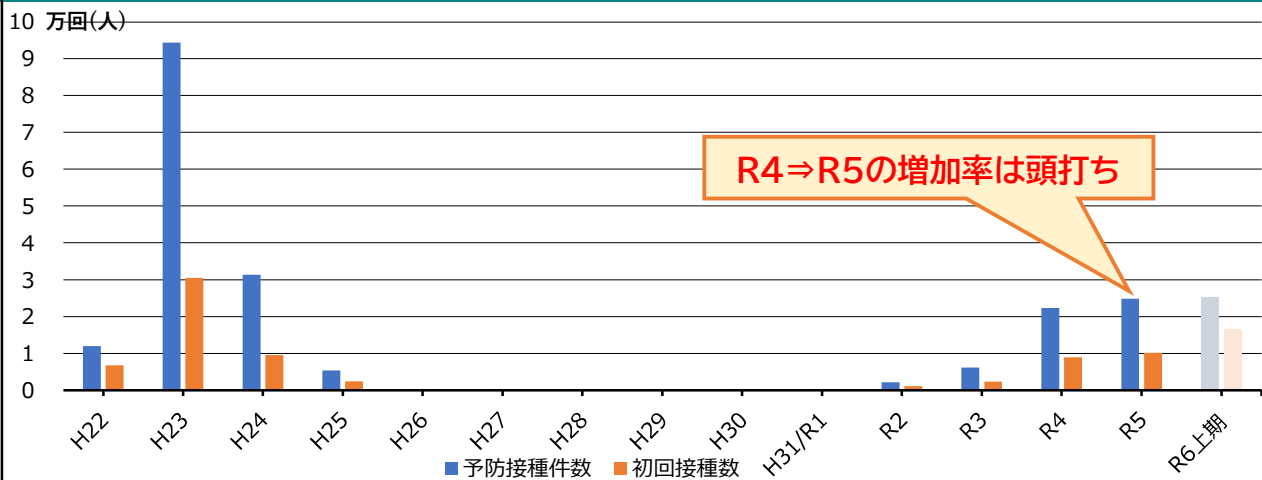
2021年11月 HPVワクチンの積極的勧奨の再開を決定

2022年 4月 HPVワクチンの積極的勧奨が実質的に再開

7

7

本県におけるHPVワクチン接種状況



- 積極的接種勧奨が差し控えられたH25年以降は接種数が激減
- その後の研究により、安全性と有効性に関する正しい情報が得られ、接種が進み始める
- 積極的接種勧奨とキャッチアップ接種が開始された令和4年度から接種が進むようになるが、以前ほどは接種が進まない状況となる

8

8

キャッチアップ接種

キャッチアップ接種(無料)の対象者

キャッチアップ接種は令和7年(2025年)3月末まで

次の2つを満たす方が対象となります

✓ 平成9年度生まれ～平成19年度生まれ
(誕生日が1997年4月2日～2008年4月1日)の女性

✓ 過去にHPVワクチンの接種を
合計3回受けていない



なぜ、改めて接種の機会が設けられるの？

HPVワクチンの接種を個別にお勧めする
取り組みが差し控えられていた間に、
接種の機会を逃した方がいます



過去1回のみ接種した場合や
2回のみ接種した場合にも対象？

HPVワクチンは合計**3回**接種

1回接種したことがある方は残り**2回**
2回接種したことがある方は残り**1回**
公費で接種を受けることができます



※接種後に報告された多様な症状等について十分に情報提供できない状況にあったことから、平成25年から令和3年まで、個別に接種をお勧めする取組を一時的に差し控えました。令和3(2021)年11月の専門家の会議で、安全性について特段の懸念が認められないことがあらためて確認され、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められたことから、個別に接種をお勧めする取組を再開することになりました。



HPVワクチンのキャッチアップ接種期限延長について

接種が完了できなかった方の接種期限を延長します

令和6年度末までに計3回の接種を完了できなかった場合でも、キャッチアップ接種期間中に1回以上接種していれば、**2～3回目を令和8年3月末まで**公費(無料)で接種できます

接種期限が延長となる方

- ① キャッチアップ接種対象者でキャッチアップ接種期間中に1回以上接種した方
- ② 令和6年度に高校1年生相当(定期接種最終年度)の女子で、キャッチアップ接種期間中に1回以上接種した方

平成9～20年度生まれ(誕生日が1997年4月2日～2009年4月1日)の女子で
令和4～6年度(2022年4月1日～2025年3月31日)に1回目または2回目を接種した方

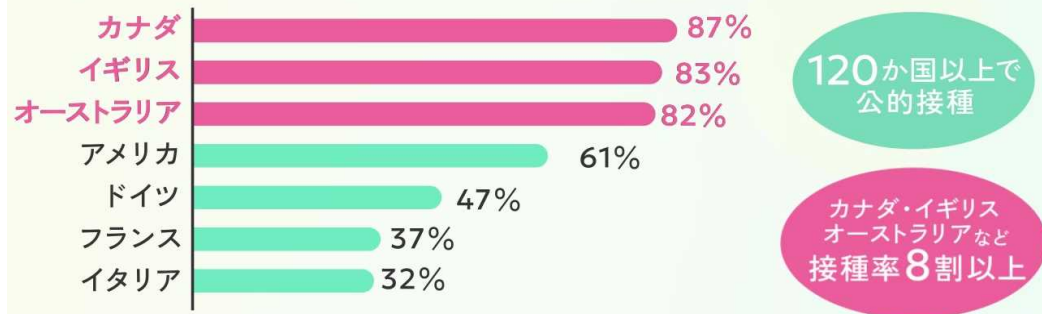
【令和7年3月までに接種開始すれば2回目以降も公費(無料)接種可能になります！】



接種を希望する方は、**令和7年3月までに1回以上接種できるように検討してください**

HPVワクチンは「世界標準」のワクチン

◆ HPVワクチンの世界での状況(2021年) ◆



- 世界**120カ国以上**で公的接種が行われており、国によっては男性への公的接種も行われている
- 接種の進む国では、**接種率は8割以上**となり、実際に**子宮頸がんの罹患率が下がってきている**
- オーストラリアやイギリスでは、HPVワクチン接種による**子宮頸がん撲滅を目標**に掲げている
- 20年近く接種を継続している中で、**接種後の症状が問題になった国は日本以外には無い**

11

11

日本のHPVワクチン接種の状況

定期接種対象 小学6年～高校1年の女性

1 有効性は明確に示されている ※ただし、接種後も二次予防としての検診は重要

- ・HPV感染、子宮頸がんに対する**高い予防効果**（9価ワクチンで80～90%）
- ・**適正な年齢**で接種することで**十分な効果を発揮**する（WHOは9～14歳の女性を推奨）

2 安全性を確認した上で接種を推奨

- ・**2021年11月から積極的勧奨を本格再開**（リスク < ベネフィット）
- ・接種勧奨が控えられた時期の対象者（'97～07生）に**キャッチアップ接種**を実施（'24年3月まで）

**しかし、日本のHPVワクチン接種率は極めて低調
(G7メンバー国で2013年以降圧倒的最下位)**

12

12

なぜ日本のHPVワクチン接種が進まないのか

1 “エビデンスのない副反応報道”による影響

- 体調不良を訴える人が相次ぎ、「若い女性が痙攣する動画」が注目を浴び、不安感を煽った
- エビデンスがないにもかかわらず、「ワクチン副反応」として連日報道され、接種率が低迷

2 厚生労働省が積極的勧奨を一時中止（'13～'21年）

- 科学的根拠に基づいた正しい知識が報道されず、国や政府への批判が過熱
- 国分科会が積極的な接種勧奨の一時差し控えを決定

3 積極的勧奨を再開するも、浸透していない

- 積極的勧奨が再開したことやキャッチアップ接種を行っていることが知られていない
- HPVワクチンの安全性やリスクについて十分な情報がなく、不安感を払拭できていない

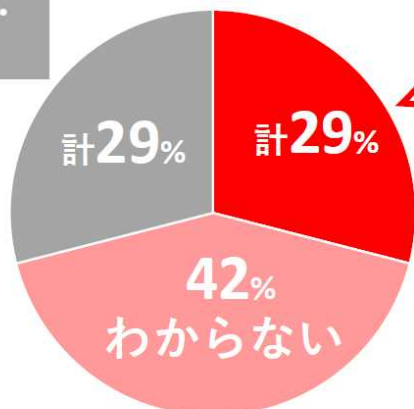
13

13

(参考)HPVワクチンに関する意識調査

あなたはHPVワクチンを、接種したい(本人)／させたい(保護者)と意思ですか？

接種したい・
させたい



厚生労働省
「HPVワクチンに関する調査」(2023)
理解度に関する調査結果

接種したくない
・させたくない

ワクチンが安全ではないと思うから
十分な情報を得られていないから



HPVワクチンへの理解が
進むと接種率は上がる(期待)

14

14

オール群馬で「子宮頸がんゼロ」を目指すために

有識者意見

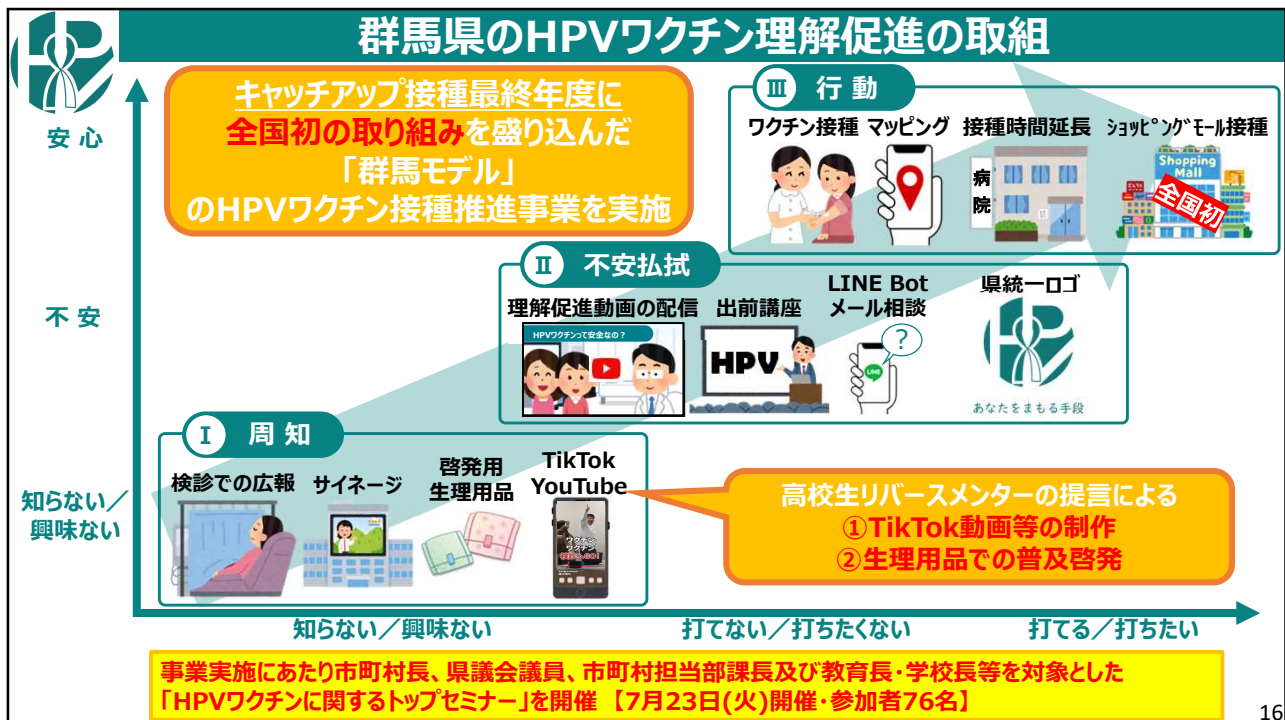
- エビデンスに基づいた正しい情報が関心のある人にしか届いていない。
- 接種対象世代の親世代（特に母親）への啓発が必要。
- 学校ではない場所で、長期休暇の時期に接種会場を設ける。

群馬県の取組

- エビデンスに基づいた正しい情報の発信強化
- 保護者世代も対象とした広報の展開
- 土日祝日や時間外を活用した接種しやすい環境づくり

15

15



16

16

取組 1 ショッピングモール接種

日時
9/22(日)
11時～17時

会場
イオンモール高崎

対象
以下に該当する
県内在住女性

- ①小学6年～高校1年相当
- ②1997年度～2007年度生まれ

接種数：60人



ワクチンコンシェルジュの無料相談会も同時開催

取組 2 理解促進のための動画配信

HPVワクチンの正しい知識がわかる動画を配信



様々な情報への**不安を解消**

**動画再生回数(2月末現在)
前編・後編合わせて10万回以上**

17

17

その他の取組

取組 3 医療機関の接種時間延長
(対象地域：太田・富岡・吾妻・利根沼田・館林)

**延長実施施設数：17施設
合計接種数：151人**


9月の土曜午後を中心に特別枠を設定

取組 4 県内統一ロゴ・キャッチコピーの作成

取組 5 啓発用リーフレットの作成・配布
(配布先：中学校・高校・大学・協賛企業)

取組 6 LINE相談窓口の開設

取組 7 接種医療機関のマッピング(検索)サイト開設



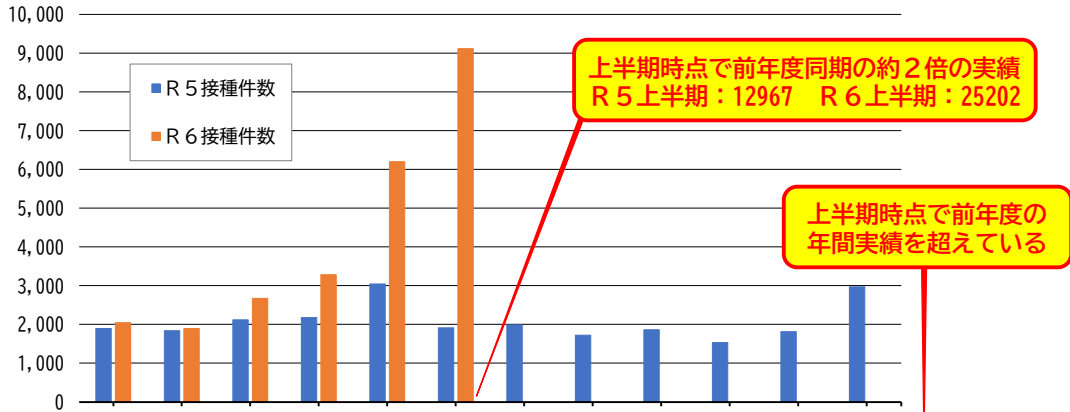
18

18

令和6年度HPVワクチン接種状況（群馬県）

■ 県内の接種状況…7月から9月にかけて接種者数が大幅に増加

接種回数の対前年度比較（上半期）（R5→R6）



接種件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和6年度	2,046	1,890	2,674	3,283	6,196	9,113	—	—	—	—	—	—	25,202
令和5年度	1,896	1,833	2,116	2,172	3,039	1,911	1,984	1,718	1,858	1,533	1,808	2,965	24,833

出典：ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種実施状況に関する調査（群馬県分速報値）

令和6年度までのHPVワクチン接種状況（全国・年齢別）

2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (上半期)	累積 (2024上半期)	生まれ年度	2024年度内に 達する年齢
29.7%	23.7%														53.3%	1994	30
11.1%	62.3%	1.0%													74.4%	1995	29
11.9%	59.6%	6.7%													78.3%	1996	28
10.3%	59.2%	9.0%	1.0%								2.0%	1.6%	3.2%	86.2%	1997	27	
0.7%	64.9%	12.1%	0.7%	0.0%							2.7%	2.0%	3.6%	86.9%	1998	26	
	1.2%	64.7%	2.3%	0.1%	0.0%						2.4%	2.5%	7.3%	80.5%	1999	25	
		1.2%	12.3%	0.2%	0.2%	0.1%					7.5%	5.7%	13.3%	40.6%	2000	24	
			0.9%	0.3%	0.1%	0.1%	0.2%				8.0%	8.4%	16.6%	34.5%	2001	23	
			0.0%	0.2%	0.0%	0.1%	0.5%				9.4%	9.0%	17.5%	36.8%	2002	22	
				0.0%	0.1%	0.1%	0.3%	1.2%			9.5%	9.2%	16.8%	37.3%	2003	21	
					0.0%	0.1%	0.1%	0.7%	9.2%		9.5%	9.4%	14.8%	43.9%	2004	20	
						0.0%	0.3%	0.4%	2.8%	20.3%	4.8%	5.0%	13.2%	46.8%	2005	19	
							0.1%	0.7%	1.2%	7.0%	16.0%	8.2%	13.5%	46.7%	2006	18	
								0.2%	2.0%	4.5%	10.7%	14.3%	12.7%	44.4%	2007	17	
									0.6%	4.6%	6.6%	20.4%	17.6%	49.9%	2008	16	
										1.8%	8.6%	9.9%	11.2%	31.5%	2009	15	
											2.4%	15.1%	9.5%	27.0%	2010	14	
												4.3%	8.8%	13.1%	2011	13	
													4.4%	4.4%	2010	12	

緊急促進事業世代は接種率が**高い**

20代前半は接種率が**低い**

定期接種の**勧奨再開**世代は接種率が**低い**

- キャッチアップ接種世代のうち、緊急促進事業世代(勧奨の差し控えがされる前)は接種率が高い
 - キャッチアップ接種で多くの方が接種したが、20代前半は5割に届かない
 - 定期接種世代も接種が進んでおらず、5割に届いていない
- ⇒ **今後年代によって子宮頸がん罹患率が異なる状況になる可能性も**

令和7年度HPVワクチン理解促進事業（予定）

正しい知識の理解促進と接種機会の拡大を継続して実施する

1 理解促進イベントの開催（新規）

- ・ショッピングモール接種及び無料相談会と連動したイベントを開催（7～9月予定）
- ・ショッピングモール内のイベントスペース等を活用
- ・当事者・専門家を交えたトークイベント等を実施
- ・ラジオCMや特集番組でイベントを周知

2 ショッピングモール接種の実施

- ・ショッピングモールに臨時接種会場を設置（9月予定）
- ・「ワクチンコンシェルジュ無料相談会」も同時開催
- ・イオンモール高崎での開催を想定

3 普及啓発と機会拡大の充実

① リフレットとポスターの作成

- ・R6事業で作成したオリジナルキャラクター、ロゴとキャッチコピーを活用する
- ・ポスターで県事業の概要を周知する

② 啓発用品（生理用ナプキン）の配布

- ・県内中学・高校等を中心に、啓発用品を配布する。

③ LINE相談窓口・メール相談の実施

- ・群馬県デジタル窓口の相談窓口を継続実施する
- ・産婦人科専門医によるメール相談を継続

④ 既存作成動画の活用

- ・R5～6年度作成動画を活用した周知啓発の実施

⑤ マッピングサイトのさらなる充実

- ・土曜日や平日の遅い時間帯に接種できる医療機関を検索しやすいよう、マッピングサイトを充実させる

21

21

問い合わせ窓口

群馬県健康福祉部感染症・疾病対策課

感染症危機管理室 予防接種係

TEL : 027-226-2615 ・ 2618

FAX : 027-223-7950

Email : corona-vaccine@pref.gunma.lg.jp

22

22